幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を目指して

「わくわく・きときと」接続ガイド

「元気とやまマスコット
きときと君」

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10 の姿）を手掛かりに、保育者と小学校教員が子どもの学びと育ちを共有することが大切です。

接続ガイド①
遊びの中に見られる幼児期の学びと育ちを理解しましょう

▶

接続ガイド②
幼児期の学びと育ちが小学校教育にどのようにつながるかを確かめましょう

▶

接続ガイド③
幼児期の学びと育ちを踏まえた小学校での学びを理解しましょう

▶

接続ガイド④
円滑な接続を目指し、実践してみましょう

- 本ガイドでは、幼児期の教育と小学校教育における接続期を、年長児4月から小学1年生1学期末までとして取り上げています。
- 富山県では、接続期を通して大切にしたい三つの視点から子どもたちを捉え、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を目指しています。

自分づくり

かかわりづくり

学びの基礎づくり

令和２年２月　富山県教育委員会

接続ガイド①
わくわくアプローチ期（年長児4月～3月）の学びと育ち

遊びにおける子どもの姿から、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）を手掛かりに幼児期の学びと育ちを理解しましょう。小学１年生にもよく似た姿が見られますね。

年長児の１年間をわくわくアプローチ期としてⅠ～Ⅲ期に分け、代表的な子どもの遊びに見られる「10 の姿」を示しました。

	Ⅰ期（４月～８月） 友達と夢中になって活動を楽しむ	Ⅱ期（９
代表的な遊び	＜砂・泥遊び＞	＜生活
自分づくり	＜水路を作る＞ つなげて水が通るようにしたいな。あれ、うまくつながらないぞ。 やっと水の通り道ができたぞ。 ・願いをもって自分なりに考え、工夫したり試したりしている。諦めずにやり遂げ、達成感を味わっている。【自立心】	＜劇遊びで役になりきる＞
かかわりづくり	＜友達と一緒に高い山を作る＞ 乾いた砂はすぐに崩れるね。 一緒に大きい山を作ろうよ。 水をかけて、たたいて固めたら、崩れないよ。 ・具体的なイメージを伝え合い、互いの思いや考えを共有している。【言葉による伝え合い／協同性】 ・砂や泥に触れ、変化を感じ取りながら遊びを楽しんでいる。【自然との関わり・生命尊重】	＜劇の大道具を友達と協力して作る＞ どんな絵を描く？ ・自分の考えと友達の考えをすり合わせたり、相手の意見と折り合いを付けたりしている。【言葉による伝え合い／道徳性・規範意識の芽生え】 ・共通の目的の実現に向けて工夫して協力し、やり遂げた充実感を味わっている。【協同性】
学びの基礎づくり	＜泥団子をたくさん作る＞ やった！できた。大きいのは、２個。小さいのは、１、２、３… 硬くてこわれない泥団子をたくさん作りたいな。 ・イメージした泥団子を作ることができるよう、工夫したり、試したりする中で、土の性質や水の役割に気付いている。【思考力の芽生え】 ・必要感に基づいて数えたり量を比べたりするなど、数量に興味や関心をもっている。【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】	＜劇に必要な小道具を考え身近な素材で作る＞ ・新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにしている。【思考力の芽生え】

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）

……幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、育みたい資質・能力が育まれている子どもの具体的な姿（特に5歳児後半に見られるようになる姿）

【健康な心と体】【自立心】【協同性】【道徳性・規範意識の芽生え】【社会生活との関わり】【思考力の芽生え】
【自然との関わり・生命尊重】【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】【言葉による伝え合い】【豊かな感性と表現】

月～12月） 的をもって活動する	Ⅲ期（1月～3月） 小学校へのあこがれを膨らませ、自信をもって活動する
発表会＞	＜郵便屋さんごっこ＞
本物の手品師みたいにかっこよく決めるぞ！ 種も仕掛けもありません。 ・自分のなりたい役を選び、なりきって表現することを楽しんでいる。【健康な心と体／豊かな感性と表現】 ・「本物らしくしたい」という目標に向かって、諦めずに頑張ろうとしている。【自立心】	＜友達に伝えたい思いをもつ＞ 「だいすき！」と書きたいけど、うまく書けないな。 どうやって書けばよいか友達に聞いてみよう。…やった！書けたぞ。 ・友達に伝えたいことを自分なりに文字や絵などで表現している。【豊かな感性と表現】 ・手紙を書きたいと思い、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動している。【自立心】
川も描こうよ！ 秋だからトンボを描こうかな。雲も描いてもいい？	＜役割分担をし、郵便屋さんごっこを楽しむ＞ 本物の郵便屋さんみたい。切手もはってあるね。 ぼくたちの郵便局に、たくさんの友達が来てくれて嬉しいな。 ・施設見学等から、遊びに必要な情報を取り入れている。【社会生活との関わり】 ・役割分担をして遊びを楽しみ、自分が役に立つ喜びを感じている。【社会生活との関わり】
ビニールの衣装、かわいいな。私も作ってみよう。 ・友達の考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断している。【思考力の芽生え】 〇〇ちゃんはリボンを付けたんだな。私はハートの飾りを付けてみようかな。	＜手紙を読む・書く＞ 手紙に、「あしたもあそぼうね」って書いてあった。嬉しいな。 お返しに、私も手紙を書こう。喜んでくれるかな。 ・友達からの手紙を読んだり返事を書いたりするなど、文字に親しむ体験を通して、文字への興味や関心を深めている。【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】

接続ガイド②
幼児期の教育から小学校教育へ

幼児期の教育と小学校教育との違いや共通点を理解し、学びと育ちがつながるよう指導を工夫しましょう。

幼児期…遊びを通した総合的な学び

＜　わくわくアプローチ期(年長児4月～3月)の取組み例　＞

「クラスプラカードを作ろう!」

～お泊まり保育「森の中探検」に向け、園内探検ゲームでの経験を生かした取組み～

※【　】は 10 の姿を示す

グループごとの仲が深まるといいな。

園内探検ゲームの実施と振り返り

「楽しかった！でもね…」
「グループのみんながどこにいるのか分からなくなった…」
「声もかけたんだけど…」

か【言葉による伝え合い】

困ったことや問題を自分たちの力で解決できるようになってほしいな。

それは困ったね…お泊まり保育は森の中を探検するよね。どうしたらいいかな?

お泊まり保育「森の中探検」に向けての話合い

「周りをよく見てついて行く」
「先生たちが遠足で使っているプラカードを持ったらいいんじゃない?」「作ろうよ」

じ か【協同性】

プラカード作りを通して、グループで考えを出し合い、工夫して取り組めるようにしたいな。

よい考えだね。グループで工夫してプラカードを作ってみよう

グループごとのプラカード作り

＜水にぬれても破れないかを試すグループ＞
(S 児が家庭でプラカードを作ってくる)
「でも、これだと水で破れるかも…」(霧吹きで水をかけて試す)
「ダメだ…もっと強くしよう」「全部にセロテープを貼ろう」
「周りはビニールテープにしようか」
「持ち手もビニールテープを巻こうよ」

じ か ま【思考力の芽生え】【自立心】【協同性】

＜色や材料を工夫し、役割分担をして作るグループ＞
「どんな絵にしようかな?」「ぼくたちは8人だからマークを8個描こう」
「全員分の似顔絵を描こう」
「ひもを周りに付けるのはどうかな。かっこいいよ」
「色はみんなが好きな水色にしよう」
「私は○○ちゃんと持ち手のところを作るね」

か ま【豊かな感性と表現】【言葉による伝え合い】
【協同性】【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)

じ……自分づくり　か……かかわりづくり　ま……学びの基礎づくり

児童期…各教科等における自覚的な学び

＜　きときとスタート期(小学1年生4月～7月)の取組み例　＞

「クラスプラカードを作ろう!」での学びと育ちが、小学1年生では次のような児童の姿につながります。

● 幼児期の学びと育ち
★ 学びと育ちを踏まえた指導の工夫

じ か 特別の教科　道徳

「あいさつすると　きもちがいいね」
「よいと　おもうことは　すすんで」

・よりよい学校生活や集団生活の充実に向けて、学級生活を楽しくしようとする気持ちをもつ。
・よいと思うことを進んでしようとする。

じ か 特別活動(学級活動)

「がっきゅうもくひょうを　きめよう」

・気持ちよく、楽しく生活できるよう、学級の目当てを決める。

●「わくわくアプローチ期」では、自分の思いを友達や先生に伝えようとする力が育っています。
(P２・３接続ガイド①Ⅰ期Ⅱ期かかわりづくり参照)

★「きときとスタート期」において学級目標について話し合う時には、思いを受け止めたり、十分表現できるように問い返したりし、児童の考えをできるだけ取り入れます。

か ま 国語科

「ききたいな、ともだちの はなし」

・自分のしたことや出来事についてみんなに紹介したり、聞いている児童が、その内容に対して質問したりする。

か ま 生活科

「みずで あそぼう」

・身の回りのものや自然をうまく生かして、遊びに使うものをみんなと楽しみながら工夫してつくる。

●「わくわくアプローチ期」では、グループごとに、考え、工夫し、協力し合ってよりよいものをつくり上げていく経験をしています。
(P２・３接続ガイド①Ⅱ期かかわりづくり参照)

★「きときとスタート期」では、例えば「水てっぽう」で遊ぶ児童には、水を遠くへ飛ばすために必要な用具や材料を選べるように準備します。
　また、興味や関心が同じ子ども同士をグループにするなど、協力し合う姿につなげます。

ま 算数科

「なかまづくりと かず」

・具体物を操作しながら、ものとものとを対応させて数を数えたり、ものの個数を比べたりする。

じ ま 図画工作科

「すきなもの　いっぱい」「ひらめきコーナー」

・形や色を考えながら描き方を工夫して、食べ物、乗り物、動物、花など、自分の好きなものを描いて楽しむ。
・大好きなものに目や手足を付けて自分だけのすてきなマークをつくる。

●「わくわくアプローチ期」では、子どもたちは、様々な活動や遊びを通して日常的に数に親しんでいます。
(P２接続ガイド①Ⅰ期学びの基礎づくり)

★「きときとスタート期」では、身の回りのものや日常生活の中で数を取り上げた授業を展開し、児童の意欲を高めます。

(矢印は主なもの)

接続ガイド③
きときとスタート期（小学1年生4月～7月）の学び

小学校教育は幼児期の教育での学びと育ちを踏まえて行います。ゼロからのスタートではありません。

(1) 入学当初（最初の1週間）のスタートカリキュラム

スタートカリキュラム第1週の週案に、円滑な接続のために大切にしたいポイントを示しました。各学校において計画的・組織的に共通理解を図りながら進めましょう。

◎　幼児期における遊びを通した総合的な学びを、小学校での各教科等における自覚的な学びにつなげるために、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の充実を図ることが大切です。

◎　入学当初の児童の発達の特性を踏まえて、10分から15分程度の短い時間を活用して時間割を構成します。また、思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めていけるよう、活動時間を設定することも考えられます。

◎　児童が安心感をもち、自分の力で学校生活を送ることができるよう、学習環境を整えることが重要です。（例：1日の予定が見通せる掲示、ゆったり過ごせる読書コーナー　等）

＜週案参考例＞

時間	1日目	2日目		3日目		4日目		5日目		6日目	
朝の会	入学式・学級指導等	◆朝読書タイムでの読み聞かせ　◆朝の会での「お話きいて」「先生あのね」等									
1限		学活	はじめまして（自己紹介）	音楽	うたっておどってなかよくなろう	国語	どんなおはなしかな（読み聞かせ）	音楽	うたっておどってなかよくなろう	音楽	こうか
		学活	といれのやくそくげそく、あまぐ	国語	なんていおうかな	音楽	うたっておどってなかよくなろう		すきなものいっぱい	生・国	がっこうたんけんでみつけたよ②
2限		生活	がっこうだいすき	生活	がっこうだいすきがっこうたんけんをしよう（歩き方）	算数	おおいのはどちらかな	図工	（学校探検で見つけたもの） 関連的な指導	算数	おなじかずのなかまをさがそう（学校探検で見つけたものを使って）
		音楽	うたっておどってなかよくなろう								
3限		学活	たのしいきゅうしょく・準備の仕方・片付けの仕方	図工	すきなものいっぱい	生活	がっこうだいすきがっこうたんけんをしよう（校舎内）	算数	なかまづくりとかず 合科的な指導	国語	あさ（声に出して読む、絵を見て見つけたものを話す）
4限		学活	かえりのよういのしかた	学活	がくしゅうようぐのしまいかた（机、ロッカー）きゅうしょくじゅんび	道徳	どきどきわくわくいちねんせい	生・国	がっこうたんけんでみつけたよ①	道徳	こんなときなんていうの
			きゅうしょくじゅんびのしかた			学活	きゅうしょくじゅんび	学活	きゅうしょくじゅんび	学活	きゅうしょくじゅんび
5限		児童会	ちくべつじどうかい（交通安全教室）	体育	ともだちいっぱい（おにごっこ）	生活	がっこうたんけん（体育館、グラウンド）	国語	どんなおはなしかな（読み聞かせ）	体育	ともだちいっぱい（ゆうぐのあそび）
				学活	かえりのようい かえりのならびかた（下校の仕方）	学活	かえりのよう い	学活	かえりのよう い	学活	がっこうとなかよし（掃除の仕方）かえりのよう い

朝の会や1限には幼児期に親しんできた遊びや活動等を取り入れて安心感をもたせ、楽しい気持ちで１日をスタートするようにします。

(2) きときとスタート期(4月～7月)の学び

わくわくアプローチ期の学びと育ちを、きときとスタート期の学びにつなげるために、具体的な指導の工夫を考えます。

(※指導上の留意点　☆「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導の工夫　【 】は 10 の姿を示す)

自分づくり

4月の活動例　学級活動「はじめまして」(週案参考例２日目１限)

○ **みんなで歌を歌う。**「チューリップ」「手をたたきましょう」
- 中庭にチューリップ、咲いていたね。
- 学校でも大きな声で歌おう。

○ **自己紹介をする。**
- ぼくの名前は○○です。好きな食べ物は唐揚げです。算数をがんばりたいです。

○ **自己紹介を振り返って思ったことを発表する。**
- 大きな声で言えて嬉しかった。
- 私と好きな食べ物が同じ友達がいたよ。

※　幼児期に親しんできた歌を歌ったり、手遊びをしたりして安心感を高め、楽しく学習を始められるようにします。

☆　教師が自己紹介の手本を見せ、自分のことを伝えたいという意欲を高めます。また、手本を参考に自分で考えて自己紹介できるようにします。
【自立心】

かかわりづくり

4月の活動例　生活科
「がっこうだいすき～がっこうたんけんをしよう」(週案参考例４日目３限)

○ **探検で行ってみたい場所について話し合う。**
- グラウンドにジャングルジムがあったよ。
- 給食がどこからくるのか知りたいな。
- ３階には６年生の教室がありそうだよ。

○ **探検の約束について話し合う。**
- 廊下は静かに歩くといいよ。
- 保育園でもそうだったよ。

○ **グループごとに学校を探検する。**
- 校長室には校長先生の写真が 15 もならんでいたね。
- 放送室はテレビ局みたい。入口にマイクの絵がある看板を見つけたよ。

☆　児童と会話しながら、幼児期での活動や経験を引き出し、自分たちの思いを生かして探検に取り組めるようにします。**【言葉による伝え合い】【協同性】**

☆　探検の約束について幼児期の活動や経験を基に話し合い、学校のルールやマナーを自分たちで守ろうという気持ちを高めます。
【道徳性・規範意識の芽生え】

☆　数量や文字等については、児童の興味に応じて声をかけ、幼児期に身に付けた数量や文字などへの関心や感覚を高めます。
【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】

※　探検で見つけたものを伝えたいという思いを、国語科「おもいだしてはなそう」「すきなものなあに」、図画工作科「すきなものいっぱい」などにつなげます。

学びの基礎づくり

7月の活動例　国語科「すきな　もの　なあに」

○ **生活科の学校探検の経験を基に、学校内にある部屋を思い出す。**
- お昼の放送をしている放送室があったよ。

○ **一番好きな部屋を決めて、ペアの友達に話す。**
- いろいろな楽器があって、楽しそうだから、音楽室のことを話そうかな。

○ **好きな部屋のこととその理由を文章に表す。**
- 文の始めは一字下げて書くんだね。
- 好きな理由を続けて書いてみるよ。

○ **文章を書いたカードを掲示し、友達に紹介する。**
- 好きな部屋を紹介できて嬉しかったな。
- 理科室のことをみんなに知ってもらえたよ。

☆　生活科「がっこうたんけん」を題材に選び、以前に描いた絵や写真を提示することで、経験したことを想起して話題を決めやすくし、相手に伝えたい気持ちを高めるようにします。
【豊かな感性と表現】【言葉による伝え合い】

※　ワークシートなどを活用することで、句読点の打ち方や理由の書き表し方に注意して文章に表現できたことの満足感を、味わうようにします。

※　生活科を中心とした合科的・関連的な指導から、段階的に、教科などの学習につなげます。

接続ガイド④
円滑な接続を目指して

子どもの学びと育ちは連続しています。保育者と小学校教員は、幼児と小学１年生の学びと育ちがどのような点で連続しているのかを互いに理解し合いましょう。

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の重要性

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成30年度より全面実施）

・小学校教育との円滑な接続
・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、保育者と小学校教員が子どもの成長を共有

小学校学習指導要領（令和２年度より全面実施）

・幼児期の遊びを通した総合的な学びから各教科等の学習に円滑に接続されるよう生活科を中心に合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定
・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導を工夫

保育者と小学校教員の合同研修会

「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を踏まえた指導の工夫」などをテーマに、円滑な接続を目指した研修会を合同で開催しましょう。

年長児の小学校体験

年長児が、小学校内を探検したり、１年生の教室で授業（名前を呼ばれて返事をするなど）を体験したりするなど、入学への期待を膨らませる工夫をしましょう。

円滑な接続を目指した取組みを紹介します！

夏休みに小学校の先生が来園し、年長児と一緒に給食を食べたり保育に参加したりし、子どもの育ちを共有する機会としました。

年長児と１年生との交流を行う際に、活動のねらいや子どもの学びや育ちについて共通理解を図る時間をもちました。

保育参観や学習参観の際には、事前や事後に少しの時間でも、保育者と小学校教員との意見交換や研修を行っています。

幼児教育施設と小学校の先生が日頃から挨拶を交わすなど、いつでも声を掛け合える関係性をつくっています。また、月予定を交換し、互いの教育の理解につなげています。

幼児教育・小学校教育 接続カリキュラム改訂委員

委員長	若山　育代	（富山大学人間発達科学部准教授）
副委員長	高松　尚子	（富山市立太田保育所長）
委　員	東　早苗	（総合教育センター研究主事）
	川島　祐子	（砺波市立出町認定こども園長代理）
	杉浦　敬美	（幼児教育スーパーバイザー）
	中西千賀子	（津沢こども園長）
	波岡　千穂	（堀川幼稚園副園長）
	藤井　昭彦	（東部教育事務所指導主事）
	山口真沙恵	（西部教育事務所指導主事）
事務局	中森　晴美	（幼児教育センター指導主事）
	松村　功太	（総合政策局企画調整室主事）
	山本　詩織	（厚生部子ども支援課主事）